

金沢城公園 中期経営目標

(実施期間 平成30年度～平成34年度)

平成30年3月改定

1 施設の設置目的

金沢城の貴重な歴史的文化遺産の継承と都心部に残る自然環境の保全を図りながら、兼六園と並ぶ県都金沢のシンボル公園として、また、本県の歴史・文化・伝統を継承する「象徴」として、本県の豊かな文化土壌に一層の厚みを加えるとともに、県下の交流人口の拡大と都心地区の活力の源となり、新たな賑わいの創出と魅力向上に寄与することを目的としています。

2 施設の果たすべき役割

金沢城公園は、国指定史跡である金沢城の歴史・文化をはじめ、復元建物や堀・石垣等の魅力を多くの方々に堪能していただくとともに、歴史的な城郭空間の利活用を促進し、兼六園と並ぶ本県の観光交流拠点として、さらには、県民のシンボル公園として、多くの方々に利用していただくことが重要な役割です。

3 事業内容

(1)金沢城公園の整備

江戸時代後期の城郭の地割を基に、史実を尊重し、城郭、歴史、考古学などの専門家や有識者の方々に相談しながら、城郭の基盤である堀、石垣の修復・整備、歴史的建造物の復元、本丸跡の緑の保全と活用、各遺構跡の広場や園路、休憩施設等の整備を進めています。

(2)金沢城公園の利活用

金沢城の品位、風情、歴史文化等「金沢城ならではの特性」を損なわず、広く県民に親しみ、楽しんでいただくとともに、歴史文化遺産として広く発信できるイベントを開催することを基本方針とし、県民や観光客がより一層親しみ、また楽しんでいただけるよう、復元建造物や広場などの特性に応じた利活用を推進します。

4 現状と課題

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

- ・平成27年3月の橋爪門(二の門)の復元や玉泉院丸庭園の整備などにより、金沢城の魅力が一層高まったことに加え、平成29年4月には展示・休憩・飲食を兼ね備えた鶴の丸休憩館を整備し、入園者の利便性の向上を図ったところです。来園者数は、北陸新幹線の金沢開業以降、開業前を大きく上回る水準にありますが、今後も、「加賀百万石文化」を前面に掲げた、ハード、ソフト両面での事業展開を図り、来園者数の拡大を図る必要があります。
- ・平成22年3月に「金沢城公園利活用推進策」を策定し、公園の利用促進に努めていますが、新たなイベントの開催やアフターコンベンションの誘致など利用の促進が求められており、そのためには、利活用推進策の見直し等での柔軟な運営による一層の利用拡大や積極的な復元施設の活用のPR等来園者サービスの充実等が必要であると考えています。
- ・バリアフリー化の推進、案内所スタッフなどの接遇の向上、ホームページの活用による来園者への一層のサービス向上が求められています。
- ・外国人来園者の受け入れ体制については、これまでに、外国語ボランティアガイドの養成、配置、パンフレットの多言語化、4カ国語の案内サインの整備や、ホームページの多言語化、レスポンスデザイン化※、公衆無線LANの整備など、ハード・ソフト両面で多様な取り組みを行ってきたところですが、パンフレットの対応言語の拡大など、さらに国際化を推進し、外国人来園者の受け入れ体制の充実を図る必要があります。
- ・玉泉庵及び鶴の丸休憩館についても、利用率の向上に向け、ホームページ等でのPRをはじめ、茶会等の誘致や文化催事の開催等を進めていく必要があります。

※レスポンスデザイン化・・・スマートフォンやタブレット端末など様々な種類の画面サイズに合わせて、自動的にページのデザインを最適化すること

(2) 施設運営の効率化について

- ・既に、警備や料金徴収、清掃等管理業務については、民間への業務委託を実施し、施設運営の効率化を推進してきたところですが、光熱水費や印刷費など、一層の経費削減に努めていく必要があります。

5 中期経営目標

(1) 中期経営目標

- ①北陸新幹線金沢開業年の入園者数を維持し、更なる増加を図ります。
- ②利用者アンケートによる満足度は、95%以上を目指します。
- ③北陸新幹線金沢開業年の利用者1人あたりの一般財源投入額を維持します。

(2) 測定指標と目標値

測定指標	基準値 (H27)	中間目標値 (H32)	最終目標値 (H34)
① 入園者数	2,383千人	2,300千人	2,400千人
② 利用者アンケートによる満足度	91%	95%以上	95%以上
③ 利用者1人あたりの一般財源投入額	84円	80円※	80円※

※ 新たな施設の増設等に伴う管理費の増は見込んでいない。

6 目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

①施設の利用促進に向けた取り組み

- ・引き続き、第三期整備計画を推進し、重要文化財建造物をはじめ、玉泉院丸庭園などのガイドツアー等を実施して、金沢城の魅力を発信します。
- ・金沢城ならではの特性を活用し、「金沢らしさ」が感じられるイベント等を積極的に誘致して、利用者満足度とイメージの向上を図ります。
- ・復元建物の利活用を図るため、金沢コンベンションビューロー等と連携して企業団体への積極的な働きかけを展開します。
- ・復元建物を活用した展示企画等、金沢城の歴史や文化に関わる催事を検討します。
- ・鶴の丸休憩館やホームページ等を活用し、四季を通じた金沢城の見どころの紹介などの情報発信に努めます。
- ・わかりやすく、利用しやすいパンフレットづくりに努めます。

②サービス(満足度)向上に向けた取り組み

- ・外部講師による研修会の実施などにより、案内所スタッフやボランティアガイドの接遇力の向上を図り、来園者への一層のサービス向上に努めます。
- ・電動車いすの活用、施設のバリアフリー化を推進し、高齢者や身体が不自由な方に配慮した運営に努めます。
- ・「利活用推進策」を見直し、多様な利活用が図られるよう取り組みます。

(2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・エネルギー節減の意識を高め、光熱水費等管理コストの縮減を図ります。
- ・既設照明のLED化を進め、電気使用量の削減を図ります。